

2025年度(令和7年度)学校評価自己評価表

城北中学校区	校番 2	福山市立城北中学校
最終更新日		2025年(令和7年)4月1日

I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容 学校関係者評価報告書は全項目「十分満足できる」と評価された。中学校校区で連携を深め、共通の取組で成果をあげている。各校の目標が達成できていないものについては取組の進捗状況を細かく把握し課題克服に向けて PDCA サイクルに則り実践する。	児童生徒の現状 全国学力調査の結果、福山市の平均正答率を上回ることができたものの、正答率40%未満の生徒の割合は少なくない。また、不登校児童生徒も少なからずいる。	育成する資質・能力 めざす子ども像(義務教育修了時の姿) 中学校区として統一した取組等	主体的に判断できる力・課題を発見し解決する力・地域社会と協働し貢献できる力 ・自ら考え、主体的に判断し、自立した行動ができる児童生徒 ・豊かな心を持ち、お互いを尊重し、人を大切にできる児童生徒 ・CSをベースにした児童生徒の実態把握を意識した授業研究及び教科等部会の取組 ・家庭での効率的な学習計画の立て方・メディアとの付き合い方への取組 ・地域と協働した合同行事や乗り入れ授業、「総合的な学習の時間」交流会の取組
---	--	---	--

III 自校

ミッション 福山市のリーダー校として、学びの変革を推進し郷土福山を愛する生徒を育て、地域・保護者から信頼される校区・学校にする。また、基礎的学力の定着や自ら考え学ぶ生徒を育てるとともに、心の育成を図り、城北中生徒としての品格と誇りを身につけ、「夢を実現できたのは城北で学んだから」と評価される学校をめざす。学びに向かう力・学び続ける力を育成する学校教育の推進。	育成する資質・能力 めざす子ども像	主体的に判断できる力 根拠を持って、正しい判断をしている。 よりよい解決のため、いろいろな見方や考え方をしている。	課題を発見し解決する力 見出した課題を、自ら解決しようとしたり、他者と協力して解決しようとしたりしている。	地域社会と協働して貢献できる力 地域の課題に自ら目を向け、自分にできることはないかを考え行動している。
学校教育目標 生徒の主体性と自律性を育み、地域社会に貢献する生徒の育成				
現状 <児童生徒> 【成果】 全国学力学習状況調査において、国語・数学ともに正答率は市平均を上回ることができた。 【課題】 全国学力学習状況調査において、正答率40%未満の生徒の割合が数学は市平均よりも1.6%高かった。 <授業> 【成果】 福山市教育委員会からの結果分析取組シートにおける全国学力学習状況調査の生徒質問紙の肯定的割合の数値が市平均を上回ることができた。 【課題】 全国学力学習状況調査の生徒質問紙29「1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか。」に課題が見られた。	研究 テーマ 内容等 めざす授業の姿	生徒の実態を把握し、「ことば」と「数」にこだわった授業づくり 基本的な知識や基礎学力を定着させ、生徒自身のやる気やモチベーションのアップにつなげる。(特に正答率40%未満の生徒の学力向上につなげる。)	<input type="checkbox"/> 各教科の今自分に必要な知識や技能について判断できる。 <input type="checkbox"/> 各教科の知識や技能について、理解できる。 <input type="checkbox"/> 課題解決に向け、最後まで粘り強く課題解決のための方法を見出すことができる。 <input type="checkbox"/> 関心・意欲を持って課題を見出し、課題解決の方法を考えられる。 <input type="checkbox"/> グループやペア等の活動を通して、協働的に課題解決に臨んだり、他者の考えをもとに自らの考えを広げたり深めたりする場面が設定されている。	

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立城北中学校

年 目	中期経営目標	重 点	分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
							□指標に係る 取組状況	70% 評価	達成 評価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	70% 評価	達成 評価	総合 評価
2	自ら考え学 ぶ生徒(主体 性)の育成	★	継続	主体的に学ぶ意欲・態 度の向上	○授業において、わか らないことを早期発 見して、改善方法を選 択して ○実技教科とリンク させ、横断的な学びを 創造する。	○生徒アンケートにお いて、主体的に学ぶ意 欲・態度に係わる質問項 目の肯定的評価の割合 を80%以上にする。								
			継続	自ら考え学ぶ生徒(主 体性)の育成	○全国学力・学習状況 調査において、個別の 課題について分析し、 校内研修において後 期の学習計画を立て、 それをもとに生徒面 談及び授業改善を行 う。	○全国学力学習状況調 査の正答率において、全 教科市平均以上にする。 ○全国学力学習状況調 査の正答率40%未満の 割合を、全教科市平均以 下にする。								
			継続	自律的に行動で きる生徒の育成	○生徒会を中心とし た生徒主体の学校運 営の実施。(自治活動、 縦割り集団を軸とし た学校行事等) ○気持ちの良いあい さつが自発的にでき る、地域から信頼、応 援してもらう生徒を 育成する。	○生徒アンケートに おいて、「学校行事に ついて、自分の役割を 自覚し、主体的に行動 しています」「自分か らあいさつをしてい ます」の項目の肯定的 評価を90%以上にす る。								
2	教職員の資 質・能力の向 上	★	継続	専門教科の授業力の 向上	○教科会や職員研修 等で個々の教材研究 や実践を共有しあう。 ○校内巡回を通して、 授業実践の学び合い や生徒の実態把握を	○教職員アンケートに おいて、「教職員が、子 どもが自ら学ぶ授業づく りにあてる時間を確保 できている。」の項目の 肯定的評価を85%以上								

				通した授業づくりをする。	にする。														
		継続	教職員の資質・能力の向上	城北中学校区小中一貫教育の研修を通じた授業力の向上を図る。各教科のグループに分かれて、小学校の学びを中学校へ繋げていくとともに、中学校でのつまずきがどこからきているのか検討し、個に応じた授業づくりを進める。	城北中学校区小中一貫教育の研修を通じた授業力の向上を図る。各教科のグループに分かれて、小学校の学びを中学校へ繋げていくとともに、中学校でのつまずきがどこからきているのか検討し、個に応じた授業づくりを進める。	○『福山 100NEN 教育』アンケートにおいて、「人はどのように学ぶか、何につまずくかについて関心を持ち、教材研究を行っている。」の質問項目の肯定的評価を 90%以上にする。													
		継続	生徒指導の4つ視点（自己決定・自己存在感・共感的人間関係、安全安心な風土）を見据えた、生徒指導力の向上	○校内研修において、個々の生徒に寄り添う生徒指導をめざし、細やかな生徒交流やSCによる研修など、生徒指導部主催による研修等を定期的実施する。	○教職員アンケートにおいて、「一斉研修で学んだことを、日々の授業実践に生かしている」の項目の肯定的評価を 90%以上にする。														
2	地域に貢献する学校	継続	本校の取組や活動の地域への発信	○学校だより、学年だより、保健だより、HP、メール配信及び行事等において、本校の取組みや活動に関わる情報発信を積極的に行う。	○保護者アンケートにおいて、「通信等で学校の情報は適切に発信されている」の項目の肯定的評価を 80%以上にする。														
		継続	地域に貢献する学校	総合的な学習の時間の前期の単元において、全学年で「地域理解・社会貢献学習」を行い、地域の方々と共に学習を深める場を設定する。	○生徒アンケートにおいて、「総合的な学習の時間の学習」を通して、地域に貢献したいという気持ちが高まりましたか。」の質問項目の肯定的評価を 80%以上にする。														

		継続	<p>集団の一員としての自覚を高め、責任感を育成</p>	<p>○学校内での美化活動に主体的に取り組めるよう、毎日の清掃や環境整備を委員会活動や学活等で喚起し、美化意識を推進するとともに、環境や物を大切にしようとする姿勢を育成する。その中で校内や地域の環境整備、環境美化を充実する。</p>	<p>○生徒アンケートにおいて「一生懸命清掃しています」「学校のものや環境を大切にしています」の項目の肯定的評価を90%以上にする。</p>														
--	--	----	------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

[プロセス評価の評価基準]		[達成評価の評価基準]		[総合評価の評価基準]		
評点	評価基準	評点	評価基準	評点	評価基準	
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。	5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。	5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。	4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。	4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。	3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。	3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。	2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。	2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。	1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。	1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。